

Koryu

Ritto International Friendship Association

新年度を迎えて

会長 猪飼 光三郎



新緑の好季節を迎え、会員の皆様にはますますご健勝にてお過ごしのことと大慶至極に存じます。平素は栗東国際交流協会に格別のご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、先般開催されました定期総会におきまして再び会長を仰せつかることになりました。もとより浅学非才、加えて高齢の故をもって職務の遂行に一抹の不安もありますが、協会のさらなる発展のため微力を捧げる所存であります。どうか今後とも格別のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

協会も発足以来2年が経過し、町当局の適切なご指導と会員各位の熱心なご尽力によりまして、目指しておりました協会の基盤づくりも順調に進み、協会運営のルールも計画どおり敷かれつつあります。

3年目の今年からは、協会自立への道筋を摸索しなければならない時期となります。そのためには会員の拡大を図ることが不可欠の条件であると思います。会員拡大の方策を考え、組織強化を推し進めていくことが本年度の目標かと存じております。

このような願いをもって平成13年度をスタートいたしました。本年度もどうかよろしくようお願い申し上げます。

総務広報委員長 岡田 明 男

会員の増加と組織拡大にいっそう努めなければなりません。親善と友好の輪が広がり、将来につながっていくよすがとなることを願い、総務・広報の活動を続けます。これからもよろしくお願ひします。

交流事業委員長 内藤 貞 男

RIFA設立3年、10月には栗東市となり、ますます住民レベルでの国際交流協力が必須になると思っています。バーミンハム市、衛陽市の受入・派遣協力を行政と共に推進して、今後の事業計画を完遂していきたいと思っていますので、会員皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

文化事業委員長 中島 武 彦

会員同士はもちろんのこと、在住外国人の方々とのふれあいの場をたくさん企画し、素晴らしい思い出づくりに貢献したいと思っています。

役員名簿 (～平成15年3月末)

私達が栗東国際交流協会の役員です。皆様のご協力をよろしくお願ひします。

顧問	猪飼 峯 隆				
会長	猪飼 光三郎				
副会長	林 輝 彦	岡松 栄 司	淵田 佳 子		
総務広報委員会 委員長	岡田 明 男	副委員長 太田 正 雄			
交流事業委員会 委員長	内藤 貞 男	副委員長 森 ます 弥			
文化事業委員会 委員長	中島 武 彦	副委員長 西田 琴 美			
監事	小泉 一 夫	清水 光 彦			

第11回異文化交流サロン（文化事業委員会）

～南米の民族舞踊と陶芸を楽しむ～

2001年3月11日（日）

去る3月11日（日）午後1時30分より、第11回異文化交流サロンが町立中央公民館で行われ、在住外国人16名を含む51名が参加しました。

公民館二階ホールのステージサイドには、南米ペルーを紹介する数枚のポスターや2メートル四方の色鮮やかなタペストリーが飾られ普段と違う異文化ムード一杯。今回の異文化交流サロンは、南米ペルーの観光名所をビデオで見た後、日系ペルー人の家族、チャベス一家とその友人達による普段着の日常生活の報告、民族舞踊の披露、それに陶芸教室と盛り沢山の内容でした。

大自然の中に点在する遺跡と近代化の進むダイナミックな都市風景を旅人気分で楽しみ、毎日の生活に欠かせないジャガイモについて、谷口アイゼンさん（草津市在住）から興味深いエピソードを伺いました。気分が高まったところで登場したのが民族舞踊。ジョバン・ゴンザレスさん（瀬田在住）とチャベス・ジャックリネさん（草津市在住）の二人が、リズムカルでダイナミックな男女の愛を表現した「マリネラノルテーニャ」という踊りを10分間に亘って披露。二人のダンスが終わると会場に駆けつけてくれたペルーの若者4名が飛び入りで「蛇の踊り」、その後全員でサルサを踊るなど、会場は拍手と歌声で大いに盛り上がりました。

丁度この日、役場前広場では手原、安養寺商業まつりが行われていて、販売されていた「あげたこ焼き」が会場に。用意されていたブラジルのお菓子やペルーで人気のインカコーラで喉を潤しながら最後の陶芸に取りかかりました。町立やすらぎの家でも指導を続けている陶芸歴10年の亀田貢さんから説明を聞いた後、参加者は、大皿、小皿、湯飲み、コーヒーカップ、花瓶、置きものなど思い思いの作品に挑戦。時間の経つのも忘れる程の身の入りようでした。

南米の民族舞踊と陶芸という一見ミスマッチの異文化交流サロンは、異国の文化と人情が程良くこなれた楽しい一刻でした。

（中島武彦）



バーミンハムには栗東の仲間をこよなく愛し、人種や文化の違いを超えた深い友情で、市民レベルの交流を支えている方々が多くおられます。その中で、毎回のようにホームステイを引き受けてくださっているアール&スージ・ロバーツ夫妻について、白岩律子さんから「ミシガン後日談」を伺いました。

アール&スージ・ロバーツ夫妻との3年間

白岩律子

1998年の夏、滋賀県・ミシガン州友好親善使節訪問団に参加、栗東町の姉妹都市・バーミンハム市を訪れた時がアール&スージ・ロバーツ夫妻との出会いでした。お二人はその時ホストファミリーの方たちのリーダーとして、自宅で受け入れた2名の若者たちだけでなく私達栗東町からの8名の訪問者全員を、パーティや見学先に案内したり、自宅に招いたりしてお世話くださったのです。

帰国して印象深い思い出がまだ心に暖かく息づいている10月に、アールが突然病に倒れたということを知り、心配でいてもたってもいられない気持ちを表すために千羽鶴を皆で協力して折ったのです。めいめいがアールを想う気持ちを書き込んだ色紙も一緒に送りました。この純日本のお見舞いを彼らは驚嘆して喜んでくれました。病室に飾っただけでなく、だれかれとなく千羽鶴を見せては由来を話し、日本人は信じられないような手の込んだことすると皆が驚いたという感想をくれました。心配な事態も千羽鶴のお陰で危機を乗り切れたと言うのを聞き、私たちもうれしくなりました。今はリハビリに励んでおられるようです。

私は彼らと同世代です。国が違っても仕事をし、家族を守り、社会の一員として生きてきて共感することが多いので初めて会ってから3年経った今でも交流が続き、さらに理解が深まっていったのだと思います。友人になるのに国境はない、彼らの人間性は私の親しい日本の友人たちと共通するものがあります。さらに病気であっても、やりたいことは今までどおりやり続けるというめげない気概には感服します。その強さは、好きだから夫婦をしているし家族をしているという強い絆から来るものだということが側で見ていた者に伝わってきます。家族だけでなく他人に対しても、喜んでもらうことが自分たちの幸せという清々しい気持ちに感銘を受けます。やらされるから仕方なしにやるのではなく、やりたいことを自発的に楽しんでやる個人からなる社会を、いろいろな問題がありながらも築いているアメリカという国の持つ強さを実感します。去年の5月に一人でミシガンを再訪しましたが、彼らの普通の市民生活と一緒に体験させてくれました。

ロバーツ夫妻にゆかりのある栗東町の皆さん、アールの健康回復とお二人の幸せのために折ってあげてください。



● 読者コラムにご投稿ください ●

RIFA日本人会員・外国人会員どなたでも、またエッセイ、紀行文、詩、短歌や俳句など何でも結構です。採用分には薄謝をさしあげます。

郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・TEL/FAXを添えて事務局までお送りください。なお、匿名を希望される方はその旨お書き添え下さい。